

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社オリエンタルペーパー精製	階数	地上2F
建設地	京都府相楽郡精華町精華台9丁目1	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	60人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,500時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年7月21日
敷地面積	10,039 m ²	作成者	(株)ワイ・エム・エー建築設計事務所石村博栄 シートおねほねを駆使してください
建築面積	5,715 m ²	確認日	2016年7月21日
延床面積	6,980 m ²	確認者	(株)ワイ・エム・エー建築設計事務所黒坂知美



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★☆ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。生産ラインと建築・建築設備との融合。		注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。ほぼ全面的にF☆☆☆☆☆建材を採用する。ブラインドにより glare を抑制する。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。事務室の天井高2.7mとなっており、かつすべての執務者が十分な屋外の情報を得られるように窓を設置する。	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。建物高さを13m程度とし、周囲への圧迫感を軽減させ、周囲のまちなみにバランスよく調和させる。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。運用・維持・保全の基本計画方針が計画されている。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。節水コマに加え、省水型機器を採用した。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。適切な量の駐車・駐輪スペースを確保する。荷捌き用駐車スペースを確保する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される